



駐日大使は語る⑥

駐日メキシコ合衆国大使
メルバ・プリーア

駐日大使は、各国の正式代表として

日本に常駐する唯一の存在。

大使の目に、日本外交はどう映るのか。

メキシコの外交原則、核問題、日墨協力など

多岐にわたってプリーア大使に聞いた。

Melba Pría

1958年生まれ。外務大臣顧問や国立先住民庁長官などの要職を歴任した後、2007年から駐インドネシア大使、2015年より駐インド大使。2019年6月より現職。

四〇〇年の歴史が培った 日本とメキシコの絆と協力

「インタビュー・構成」小南有紀

——大使は駐日大使就任以前に、駐インドネシア大使と駐インド大使を務められました。

大使 特命全権大使という役職に就くことは、とても名誉なことであり、大きな責務をとまいます。二国間関係の前進・深化・拡大のために、全力を尽くすことが大使の役割です。これは任国がどこであろうと、変わることはありません。

——日本での暮らしはいかがですか。

大使 私はもともとアウトドア派なので、日本各地を旅するのが大好きです。宗谷岬や熊野古道、しまなみ海道でのサイクリングや、富士山での登山は良い思い出です。四国八十八カ所巡りをしたこともあります。各地で出会った人たちが、みなさんとても親切だったのが特に印象的です。

——メキシコも世界中から観光客を惹きつけています。

大使 メキシコは文化と多様性あふれる国です。国内には三五の世界遺産があり、南北アメリカ大陸の国の中では最多です。豊かな食文化も継承されており、メキシコ料理はユネスコの無形文化遺産に登録されています。また、先住民の文化も守られています。

メキシコの魅力は観光だけではありません。国内には才能豊かな若者たちがたくさんおり、メキシコ経済は活力に満ちています。現在、メキシコは五〇の国や地域と自由貿易協定を結んでおり、国内のインフラも世界屈指のものです。観光、ビジネス、生活——どの面をとっても、我が国の魅力を感じていただけたらと思います。

——メキシコでは、政界や社会での女性の活躍が著しいですね。

大使 実は、メキシコはもともと「マチスモ（男性優位主義）」の伝統が強い社会でした。これが変化したのは、「メキシコを誰にとっても良い国にする」という、政治家と社会の強い意志によるものです。現在、選挙時の各政党の候補者数は、男女同数であることが義務づけられています。

平和への道は、対話の機会を閉ざさなごう

——隣国である米国との間には強い経済関係が存在する

一方、移民をめぐる問題もあります。

大使 メキシコと米国の間には歴史的・地理的・人的な紐帯があり、経済関係はこれらの産物だといえます。墨米関係は世界で最も発展した関係の一つです。二〇二〇年七月には、北米自由貿易協定（NAFTA）に代わって、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）が発効しました。新型コロナのパンデミックにもかかわらず、USMCA域内の貿易額は、一九年の一六六〇億ドルから二六七〇億ドル（二年四月時点）へと大幅に増加しました。カナダも含めて、北米地域の経済関係はますます緊密化しています。

移民問題について、これをメキシコと米国の問題と考えるのは間違いです。墨米国境を越えようとしているのは、メキシコ出身者だけではなく、他の中米諸国出身者も多く含まれています。移民問題は、決して墨米二国間の問題ではありません。むしろ良好な墨米関係こそが、移民問題の解決に寄与するのです。

——ウクライナ戦争をめぐるメキシコの立場はどのようなのですか。

大使 メキシコは、ロシアによるウクライナ侵攻を断固として容認しない立場を貫いています。三月には、フランスなどととも、「ウクライナに対する侵略の人的結果」

と題する決議案を国連総会に提出し、賛成多数で採択されました。さらに、国際調停委員会の設置も提案しています。

ただし、我が国はロシアに対する経済制裁や、国際機構からロシアを排除することには否定的です。経済制裁や国際機構からの排除は、対話の機会を閉ざすだけであり、紛争の平和的解決にはつながりません。これは今回の紛争に限らず、メキシコが歴史的に貫いてきた立場なのです。

——メキシコは北朝鮮と外交関係を有しています。北朝鮮の核・ミサイル開発をどのように捉えておられますか。

大使 メキシコの周辺で起こったキューバ危機（一九六二年）の経験から、メキシコ人は核・ミサイルの問題を「現実のもの」として認識しています。その証左の一つが、六七年に署名されたトラテロルコ条約です。この条約は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を核兵器のない場所にするものです。条約の締結に尽力したメキシコ外交官のアルフォンソ・ガルシア・ロブレス氏は、八二年にノーベル平和賞を受賞しました。メキシコは、核兵器廃絶に向けて真剣に取り組んできたのです（編集部注：二〇〇二年にキューバが同条約に批准し、対象の三三カ国すべての批准が完了した）。

このような立場ゆえ、メキシコは相次ぐ北朝鮮のミサイ

ル発射を非難し、即時停止を求めています。しかし、北朝鮮と断交すべきかといえ、答えはノーです。先ほども申し上げた通り、対話の機会を保たなければ、平和的解決はできないからです。我が国の立場は一貫しています。

「人と人」が支える日墨関係

——日本・メキシコ関係の歩みについて、大使はどのようにお考えですか。

大使 両国の関係は、当時スペイン領だったフィリピンからメキシコへと向かう船が難破し、現在の千葉県御宿沖に座礁した一六〇九年にまでさかのぼれます。日本の人々は遭難者たちを救助し、献身的に介抱しました。それだけではなく、江戸幕府は太平洋を横断できる大きな船まで建造し、救助されたメキシコ人たちは故郷に帰ることができたのです。そして時代を経て、一八八八年に「日墨修好通商航海条約」が締結されました。この条約は、日本にとって初の平等条約でした。

メキシコがアジアで有する外交関係の中で、墨日関係は最も長い歴史を有しており、最も成熟した関係です。両国はともに太平洋に面する国であり、さまざまな分野での協力を深めています。地理的な距離にもかかわらず、墨日関

係は非常に緊密なのです。

——両国はともに「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」の参加国です。

大使 メキシコと日本は二〇〇五年に自由貿易協定を締結し、貿易が活発化しました。CPTPPはすでに両国



2022年10月6～7日に上智大学で開かれた第5回日墨学長会議。左から2人目がブリーア大使（駐日メキシコ大使館提供）

間に存在している緊密な経済関係を、より一層促進するものです。メキシコには現在約一三〇〇社の日系企業が進出しています。日本の企業が北米地域でビジネスを行う上で、我が国はバリューチェーンの要となっているのです。

——両国の共通点の一つに、台風（ハ

リケーン）や地震などの自然災害が多いことが挙げられます。

大使 防災の分野で両国の協力は深まっています。例えば、一九八五年の大地震の後に設立された国立防災センター（CENAPRED）は、日本の経験から多くを学んでいます。地方自治体の災害への備えを拡充するために、私たちは国際協力機構（JICA）とも協力しています。

両国の学術交流も活発です。二〇二二年一〇月には第五回日墨学長会議が上智大学で開催され、約五〇大学の学長が一堂に会しました。現在、両国の大学の間には二〇〇以上もの協定が結ばれています。ITや文学なども含めて、両国の学術交流の分野は多岐にわたっています。

——大使館はさまざまなイベントを開き、両国の国民同士の交流を後押ししていますね。

大使 約四〇〇年前に御宿の人々がメキシコ人遭難者を救助したように、国家間の友好関係の基礎には、人と人の絆があるのです。メキシコではアニメなどの日本文化が人気ですし、日本を訪れるメキシコ人観光客も増えています。

私は墨日関係が今後もさらに拡大・深化し、さらに良いものになると確信しています。駐日大使として、引き続き全力でこの仕事に取り組んでいきます。●